

1. 第 26 回 国土OB会総会報告・懇親会

(1) 大谷会長挨拶

大谷会長挨拶は、大勢の懐かしい皆さんにお会いできたことは誠にうれしい。昨年の大震災では復興が叫ばれているが、現実には遅々として進んでいない。その他多くの問題、特に原発の絡む将来のエネルギー問題、原発の存続廃止については私も賛否を決しかねている。エネルギー問題では戦争さえ起る。6重苦と言われる難問は山積みのように見えるが、私達は敗戦から日本を再建させた実力を再び発揮し必ず立ち直れると信じている。

国土OB会は今年から新理事に柴田透さん、苧坂達文に加わっていただく。今後の活性化のため、脱皮転換のため新しい若い人の力を借りたい。

(2) 会務・会計報告

事務局和田から、本日の総会出席者は53名、現在の会員数319名の平均年齢は74.3歳、80歳以上の肩は全会員の4分1になり、最高高齢100歳と高齢化している。

今総会では地方のOBとの交流を目的として首都圏以外の地方OB会に招待状を差し上げ、本日は仙台三浦さん、名古屋川本さん、大阪鈴木さんにご出席いただいた。

会報は本社の多大なご協力を戴き、年2回発行している。

村田理事から配られた資料で平成23年度収支報告がされ、当面のところ資金的に不安はない旨報告がされた。今後の会計は苧坂達文にお願いする。(巻末に収支報告添付)

(3) 会社現況説明 常務取締役 経営管理本部長 国分秀信

昨年の中日本大震災は当社にとってプラスとマイナスがあるが、将来的にはプラスと考えている。仙台に主力を結集し復興需要に対応している。震災の瓦礫処理は遅々として進んでいませんが、当社は岩手県山田町を中心として瓦礫処理や除染の大規模な試験工事などに取り組んでいる。

今後の本格的復興の進展に期待している。マイナス面では建築労務単価の値上がり、人手不足に苦慮しており今5月決算は厳しいが、この状況を一過性のものと考え土木復興を中心として来期に建て直しを進めてゆきたい。皆さんのご協力ご支援を期待する。

(4) 懇親会

出席いただいた地方OBから

1) 仙台・三浦陽一さん

数十年ぶりに皆さんとお会いできて嬉しい。東北の復興は進んでいるように報じられていますが実態は進んでいない。大量に残っている瓦礫処理に苦勞している。

2) 名古屋・川本正之さん、

名古屋圏内在住の168名のOBに声をかけて建築の黒川さんを会長として2年に1回、50名ほど集まる。リストラで退職を強いられた若い方も参加している。本日は代理として出席した。

3) 大阪・鈴木敏夫さん

平成7年から懇親会をスタートさせた。毎年11月に80名ほどが集まり親睦を進めている。

3年前に浜口さんをOB会長としてスタートしその後私が引き継いだ。土木・建築の区別無く声をかけているが、会社の成り立ちのためか、土木の参加者が多くなってしまうのが残念だ。

(5) 新任理事挨拶

苧坂達文さんより、外の社会で生きているが、長い間過ごしても国土に在籍したプライドに支えられ働いている。このような組織存続は意義のあることと信じている。総務畑がながかったので会計の経験は少ないが、よろしくご協力いただきたいのでご支援いただきたい。